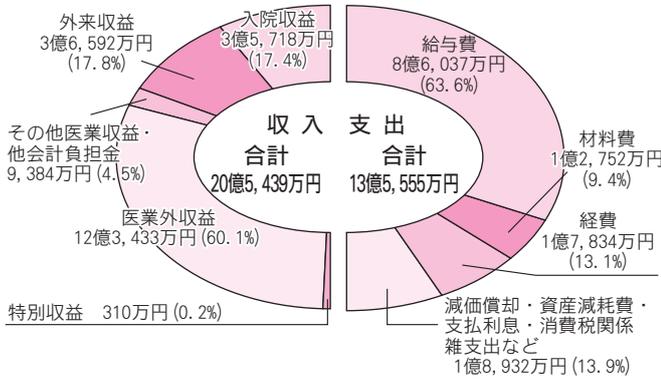


国民健康保険病院事業会計

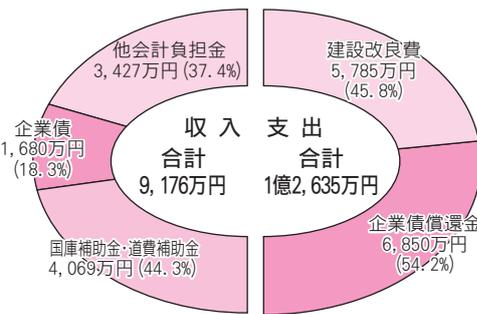
収益的収支は、昨年度に比べ患者数が減少しましたが、患者単価増により医業収益が増収となりました。

支出においては、給与費等の減少により減額となっています。

<収益的収支>



<資本的収支>



※グラフ・表の値は端数を四捨五入をしているため、合計欄の数値と内訳が一致しない場合があります。

町の会計は、一般会計や特別会計のほかに、病院や高齢者介護サービス、簡易水道といった独立採算で経営を行う事業会計があります。

事業会計は、「収益的収支」（事業によって得た利益や要した費用）と「資本的収支」（企業債「借金」の償還金や他会計からの出資金など）の2つに分かれます。

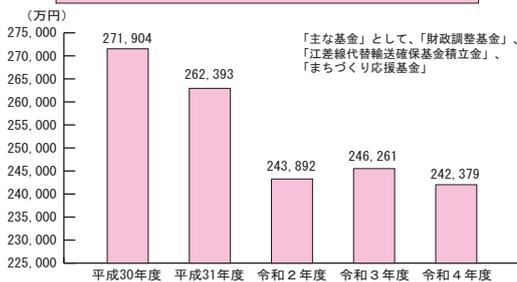
特別会計・事業会計の決算 (単位: 万円)

区分	歳入	歳出	差引額
国民健康保険特別会計	6億1,538	5億7,117	4,421
後期高齢者医療特別会計	1億6,545	1億6,393	152
介護保険事業特別会計	8億967	7億4,202	6,765
介護サービス事業特別会計	221	221	0
下水道事業特別会計	3億3,021	3億2,661	360
介護老人保健施設事業清算特別会計	4,755	4,755	0
国保病院事業会計(収益)	20億5,439	13億5,824	6億9,615
〃(資本)	9,176	1億2,635	△3,459
高齢者介護サービス事業会計(収益)	5億1,611	5億2,562	△951
〃(資本)	5,993	6,028	△35
簡易水道事業会計(収益)	1億3,715	1億2,070	1,645
〃(資本)	3億3,463	3億7,278	△3,815
合計	51億6,444	44億1,746	7億4,698

※上表の高齢者介護サービス事業会計の収益的収支決算での不足額は、現金支出を伴わない減価償却費と資産減耗費があるため、資金不足にはなっていません。

また、資本的収支決算での不足額は、損益勘定留保資金（固定資産価値の減少分などを費用化して資金不足に充当可能）などにより補てんしました。

基金残高 24億2,379万円



基金とは、町の貯金のこととをいいます。地方交付税の減少などにより、平成18年度末には基金残高が約2億3千万円まで減少しましたが、その後は徐々に残高が増えていきます。直近の5か年については、平成30年度の約27億2,000万円が最高となっており、そこから約25億3,400万円を平均として、増減をしています。

町債残高 87億0,091万円



町が公共施設や道路を整備する場合、一般的に国の補助金を財源としますが、補助金だけで財源確保ができない場合、町は地方債（借金）を発行し、財源とします。整備された公共施設や道路は、長期にわたり、みなさんが公平に利用します。で、毎年度返済する借金の財源に町民のみなさんが納めている税金などを充て、将来その施設を利用する方にも負担していただくことで、世代間の公平を図っています。

町の貯金・借金の残高は？